

東京グリーンボンドについて

東京都の目指す姿と、東京グリーンボンドの発行意義

- 東京都は、国内自治体として初めてグリーンボンドを発行予定 【名称:東京グリーンボンド 発行総額:100億円(5年債50億円、30年債50億円)】
- 環境先進都市、国際金融・経済都市として成長を続ける「スマートシティ」を目指し、東京グリーンボンドにて調達した資金は、環境対策事業に充当される

都政と東京グリーンボンド

グリーンボンド発行に向けて

「新しい東京」

2020年に向けた
実行プラン

セーフ シティ

ダイバーシティ

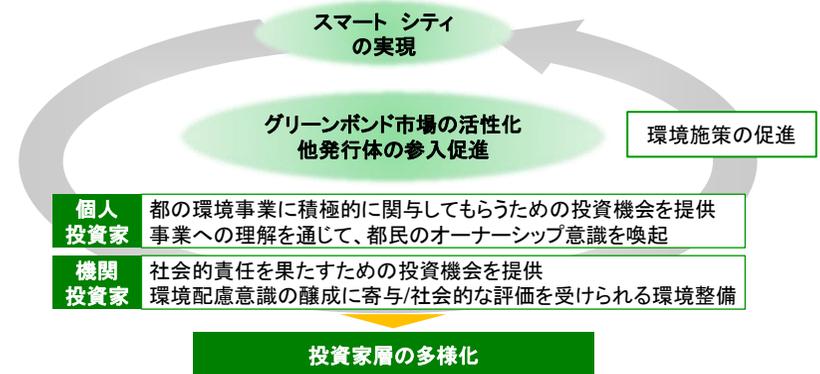
スマート シティ

- 世界に開かれた、「環境先進都市、国際金融・経済都市、東京」の創出が目的
- そのための政策の一環として、グリーンボンドの発行を位置付ける

- 2016年10月 東京都知事がグリーンボンドに言及
- 2016年11月 個人向け都債で東京環境サポーター債(外債)を発行→即日完売
- 2017年2月 グリーンボンドの発行方針を公表
- 2017年9月 グリーンボンドの適格性と透明性を確保し、投資家への訴求力を向上させるため、第三者機関であるoekom research AGから評価を取得し公表
「東京グリーンボンドの対象事業は、社会面・環境面で価値があり、持続可能性も良好」

東京グリーンボンドの発行意義 ~「グリーンボンドの発行方針」より抜粋~

- 都民や企業のグリーンボンドへの投資を通じた後押しにより、スマートシティの実現を目指す都が、新たな環境施策を強力に推進
- 国内自治体として初となるグリーンボンドの発行を通じて、**グリーンボンド市場の活性化と他発行体の参入促進につなげるとともに、国内の貴重な資金が国内の環境対策に向かって活用される流れを創出**
- 個人投資家に対して、都の環境事業に積極的に関与してもらうための投資機会を提供することにより、**事業への理解を通じて、都民のオーナーシップ意識を喚起**
- 機関投資家に対して、社会的責任を果たすための投資機会を提供**することにより、企業の環境配慮意識の醸成に寄与するとともに、社会的な評価を受けられる環境の整備を促進
- 発行体としての都が新たな投資家にアクセスすることが可能となり、**投資家層を多様化**する



東京グリーンボンドによる充当予定事業

スマートエネルギー都市づくり

持続可能な資源利用・廃棄物管理

自然環境の保全

生活環境の向上

気候変動への適応

- 競技施設の環境対策
- 都有施設の改築・改修
- 都有施設・道路の照明のLED化
- 都有施設のZEB化推進
- 上下水道施設の省エネ化

- 競技施設の環境対策

- 競技施設の環境対策
- 都有施設の改築・改修
- 公園の整備

- 競技施設の環境対策
- ヒートアイランド現象に伴う暑熱対応(遮熱性・保水性の向上)
- 環境にやさしい都営バスの導入
- 合流式下水道の改善
- 水再生センターでの高度処理

- 中小河川の整備
- 高潮防御施設の整備
- 東京港・島しょ海岸保全施設整備事業

※「競技施設の環境対策」及び「都有施設の改築・改修」は、複数区分にまたがるため再掲表示